

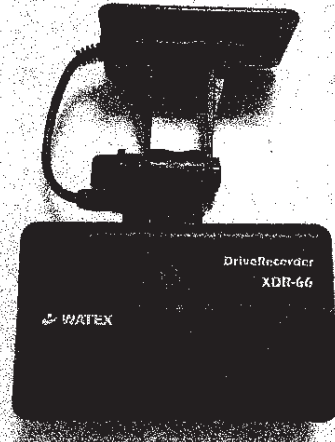
エンジンと連動で録画

ワーテックス

車両関連製品の開発や製造、販売を行うワーテックス（安俊典社長、群馬県太田市）のドライブレコーダー（DR）「XDR-66」シリーズは、200万画素カメラを採用し、最大48時間まで録画できる。記録に利用するメモリーカードのフォーマットが不要で、メンテナンスの手間がかからない。月1万5千台を出荷しているが、同社は「検査機などを増強し、年内までに毎月2万台以上を製造する体制を整える」としている。

設定した速度を超過した際は警告音が鳴るようになっており、ドライバの安全運転を強力にサポート。

走行中の映像確認可能



エンジンの始動と連動して録画が始まり、エンジンを切ると自動停止する。メモリーカードをパソコンに挿入すると、専用のビューワソフトで走行中の映像・音声・加速度グラフなどを確認することができる。万が一の時は事故報告書も出力可能。加えて同シリーズの3タイプ（KG、HG、URG）は、EMS

フォーマットフリーでメンテナンスも容易

（エコドライブ管理システム）運行管理ソフトが付属し、1日の各種運行管理データを分析して効果的な安全運転教育が行える。

安社長は「機能やフォーマットといったソフト面は迅速に改善できるが、液晶画面などのハード面の改良には時間がかかる。事故が起きない車社会の実現を最優先に、今後もユーザーの要望や意見を取り入れ、改善していきたい」と話している。（中西祥樹）